

2022



緑小だより 8号

令和4年12月
清川村立緑小学校
児童数 106人
家庭数 80戸



UPDATE

校長 船津 慎一

今年も早いもので12月となりました。この2学期も新型コロナウイルス感染症の影響を受け学級閉鎖を余儀なくされることもありましたが、計画したほとんどの学校行事を行うことができました。また、日頃から、交差点や横断歩道で日常的に子どもたちの安全を見守ってくださる地域の方々や登校する子どもたちと一緒に歩いてくださる保護者の方々など、子どもたちと一緒に汗をかいてくださる地域と保護者の皆様に支えられ毎日の学校生活を送ることができました。皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

学校では、次年度の計画をたてる時期となり、令和5年度の遠足や修学旅行、フェスティバルや運動会など学校行事をいつ、どのように行うかについて検討をしています。併せて保護者の皆様には、マチコミで学校評価を行っていただいております。多くのご意見をお寄せいただいております。様々な視点から今年度の実践を振り返り、より子どもたちに有意義な活動に改善すべく、学校では次年度に向けたアップデートをしているところです。

この時に気を付けていることがあります。それは、伝統や文化を大切にしつつ、安易な前例踏襲に流れないようにすることです。毎年同じことをすることが伝統ではなく、長く続けられてきたことが伝統になるのだと捉えています。世の中では、大切な意味をもって続けてこられたことが伝統になり、さらにその時代の文化を築いてきました。長い期間で見ると、文字や生活習慣などの文化は変わってきています。改善のためには、その時代に応じていくことも欠かせません。

教育課程を編成する際に安易な前例踏襲をすると、見直されない思考停止の状態をつくり出してしまいます。先日、キャリア教育の一環で保護者の方をゲストティーチャーに迎えて、5・6年生にお話をさせていただきました。様々なお話をしていただいたり、実際にアイディアスケッチをしたりしました。今回のキーワードは「原点を大切にしよう」ということでした。自分がやりたいことが「原点」にあれば、やらされる感はなく、ワクワクする気持ちが長く続くという内容でした。

学校における教育活動のすべてに目的やめあてという「原点」があり、それを吟味し計画立案することが重要です。毎年のことだからと慣れてしまうと、当たり前になって居心地がよく不都合を感じなくなってしまうたり、無関心になってしまったりしてしまいます。常に目的を明確に、そして子どもの実態に則して教育課程を編成することは、学校にとってとても大切なことです。

今年の1月に「一年の計は元旦にあり」という話をしました。来年の計をたてる年末12月は今年を振り返ってアップデートする時です。そして、新しいバージョンにあつらえて新たなチャレンジをしていきたいと思えます。新しい年を迎えるこの時期に、それぞれのお立場でも子どもたちの健やかな育ちのためにアップデートをする機会を持たれてはいかがでしょうか。

学校の「お正月」は4月ですが、世の中では年末となります。新しい年を迎えるにあたり、お忙しいところですが、子どもたちが地域や家庭に戻る時期となります。新年に子どもたちの笑顔を見られるのをとても楽しみにしております。

本年も大変お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

小動物ふれあい体験

1,2年生が、動物を飼育している保護者の方のご自宅へお伺いし、小動物とのふれあいを体験させていただきました。

クイズに挑戦!



優しくなめます。ふわふわだね。

あひるを触って。
かわいいね!

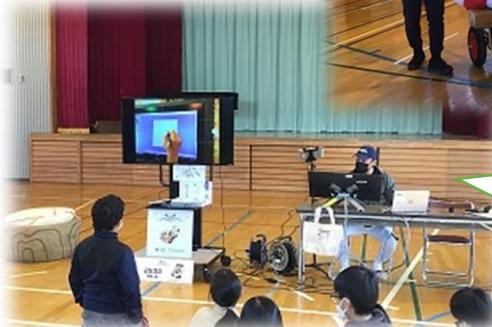


ロバに餌やり体験です。

キャリア教育 5,6年生

世界的に行われている、ボックスカート・レースに参加した保護者の方をお迎えして、授業をしていただきました。「諦める選択肢はない。」という言葉がとても印象的でした。

実際にカートに乗せていただきました。



デザインについても教えていただきました。

芸術鑑賞教室

6年生が和太鼓の体験をしました。



2学期も多くの方にご協力をいただきながら、教育活動を進めることができました。ありがとうございました。

